

継続教育の目標およびプログラムの枠組み		レベル別研修	レベル I ~ IV は、臨床看護実践能力の習得段階を示し、専門看護領域と看護管理領域へとすすめる。臨床実践能力の育成を土台に、個々の看護師が将来目標の設定ができる教育計画を考えている。レベルの設定は、パトリシア・ベナーの理論を基本にしている。
到達目標	レベル別研修		
IV	1. ①専門看護師として役割モデルとなり、専門性を発揮できる。 ②創造的な看護実践を展開できる。 2. 単位における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる。 3. 単位における教育的役割がとれる。 4. 管理および専門看護分野における研究開発を行い、変革の推進者となる。	1. 看護実践的側面 2. 管理的側面 3. 教育的側面 4. 研究的側面  ・看護倫理 ・呼吸管理 ・フットケア ・リンパマッサージのセルフケア指導 ・現場で役立つ栄養アセスメント & ケアの実践 ・退院調整の実践 ・手術を受ける患者の看護 ・糖尿病の理解と看護 ・乳がん患者の看護 ・スキンケア ・高齢者への看護・支援 ・看護師のためのメンタルヘルスケア ・感染防止	・サードレベル ・セカンドレベル ・ファーストレベル  臨床看護実践能力レベルIV 看護管理領域 レベルIII レベルII レベルI 専門看護領域 ・スペシャリスト
III	1. 専門領域における看護実践の役割モデルとなる（プライマリナース、担当看護師として役割モデルとなる）。 2. 医療チーム内でのリーダーシップを発揮できる。 3. 後輩および看護学生に対して指導的に関われる。 4. 看護研究・研修を通して看護実践を深めることができる。		
II	1. 看護過程をふまえた個別的ケアが実践できる。 2. 看護師（チームリーダー・担当看護師）の役割と責任を果たすことができる。 3. 課題に研究的に取り組み、看護実践を振り返ることができる。		
I	1. ①専門看護師として役割モデルとなり、専門性を発揮できる。 ②創造的な看護実践を展開できる。 2. 単位における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる。 3. 単位における教育的役割がとれる。 4. 管理および専門看護分野における研究開発を行い、変革の推進者となる。	・新人看護師が起こしやすい医療事故とその防止 ・楽しく学ぶコミュニケーション技法	

参考：看護管理学習テキスト4（日本看護協会出版会）

### 受講者の看護実践能力に応じた学習段階設定（日本看護協会平成21年度教育計画より抜粋）

IV	論理的かつ実践的知識を統合し、卓越した看護を実践し、所属を超えてリーダーシップを発揮できる。自己の学習活動はもとより組織的な教育・研究活動を主体的に実践できる。
III	高度な看護活動を実践でき、かつ他者にモデルを示すことができる。自己の学習活動に積極的に取り組むのみならず、指導的役割を発揮できる。
II	看護実践の場面において単独で看護を安全に実践できる。チームリーダー的役割や責務を認識し遂行できる。自己の学習課題に向けた学習活動を展開できる。
I	指導や教育のもとで、基本的な看護を安全に実践できる。指導を受けることにより自己の学習課題を見つけることができる。